

# 山内見守り新聞

発行  
山内自治振興会  
地域福祉部

山内地域見守り  
支援活動班

平成27年3月末発行  
創刊号  
平成26年度のまとめ

## いつまでも住みなれた山内で 地域で高齢者を支えよう

### 自治振興会地域福祉部 地域見守り支援事業始動

2025年問題の真つただ中、すでに65歳以上人口が30%を超える山内地区では、超高齢化社会が目の前です。田舎ならではの老幼兼用がまだある山内。高齢社会においては、面倒な人間関係が資本であることが言われています。何気なげにできていた声かけや見守りの価値を、住民が見直し見直し、整理・システム化していく動きがはじまりました。

ワークショップではたくさんの意見が出ました。抜粋です

<p>★みまもり機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り隊組織が必要?</li> <li>・区単位で動く?</li> <li>・幅広いボランティア?</li> <li>・学区全体の意識啓発必要?</li> <li>・記録やマニュアル必要?</li> </ul>	<p>★たすけあい機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災対策との連携</li> <li>・医療機関への移動手段</li> <li>・買い物・生活支援が必要か</li> <li>・区・組のつきあい大切や</li> <li>・神社・寺、老人クラブも大切や</li> </ul>
<p>★つながり機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所作りが大事な</li> <li>・今のサロンも工夫している</li> <li>・空き家を使って、 みんなが寄れるカフェいいな</li> <li>・本人と家族の関係を大切に</li> </ul>	<p>★調整機能(振興会の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの機能のシステム化</li> <li>・住民への啓発・研修会</li> <li>・見守り会議の組織化</li> <li>・行政、社協、先進地との連携</li> <li>・明文化、予算化・発信</li> </ul>

「いつも声かけているので、見守りなんて都会と違ってできてるやん」「なんで今更見守りなん?」の疑問の声も聞かれたながら始めました。このような田舎ならではの気配り、目配りにはありがたいのですが、これは10年後残っているでしょうか?このような疑問を投げかけながら、26年度は、高齢者を取り巻く現状に気づき、何から始めるかをみんなで考える準備の年とし、先進地研修とワークショップの二本立てで始まりました。

班員は、自治振興会役



4月の自主防災組織立ち上げに向けて、住民が熱心に研修を受ける山中区

山内では、9つの字の中で3つの字で、「自主防災組織」が立ち上がっています。(猪鼻・笹路・山中は27年度へ)

区で防災の組織化をして地域住民の防災の知識普及や地域の災害危険個所の把握のために、何に何度かの実地訓練も行われています。日本各地で頻発している地震、大雪、噴火等、台風被害には、山内も26年8月、「避難勧告がでる」という

### 防災力は地域力 「想定外」に対応できる地域力

「想定外」の体験をしました。65歳以下の若いものと同居率は高い者と同居率は高いものの、要援護者となりうる高齢者の日中独居は高い山内。「自分の命は自分で守る」自助力も大切です。3つの字は、高齢者の自助力を高める事業もされています。普段から「誰かがしてくれる」ではなく、誰もが力を出し合い支え合う防災対策、災害時行動は地域での助け合う力を強め、困難を乗り越える地域づくりにつながると言われています。高齢者見守りも同様です。互いのノウハウを合わせながら、地域力を高めていきたいものです。



進め方について宮治さんより説明

### 地域包括支援センター、 社会福祉協議会とのつながり

本事業の強力なサポーターが、地域包括支援センター、社会福祉協議会の職員さんでした。全職員の方が、毎回参加してくださり、当日だけでなく準備にもお手伝いいただきました。

基本的には住民の皆さんが声を出していただくことを支援する姿勢を取っていただきました。中には個別の事例に対する質問や「地域包括支援センターってそんなこととしてくれるの?」との出会いの場にもなったようです。地域包括ケアシステムを進める上で大切な機関です。今後ともうまく協働していきたいですね。

高年齢化 34.4% 日中独居高齢者増

★元氣な高齢者が担い手に

員と、普段から地域の高齢者支援の担い手になっていただいている民生委員、福祉推進員の全員、認知症キャラバンメイトの方としました。一概に見守りと言ってもいろいろの形があります。今行っているサロンや訪問、地域に残されている常会やお寺まいり、ゲートボール等も支え合いになって

いることがワークショップを通じて上がってきた。北・中・南の地区に分かれて話をしていると、「今気になってくる高齢者」の話も出てきます。個人情報扱いには十分に考慮しながら、「近所ですら知らないか」の具体的な話にも移行しました。「こんな風



今年度は、コーディネーターとして、あいこうか市民活動ボランティアセンターの宮治正男さんにお世話になりました。地域型のまちづくりの見える化、ゆっくりと合意形成を進めてくださいました。「山内は熱心やね」と逆に喜んでいただいていた。宮治さんをはじめ、地域包括支援センター、社会福祉協議会の職員さんにお礼申し上げます。

### あとがき

5回ワークショップにより、山内学区における地域見守りの具体的な活動は、①みまもり機能(家庭訪問等)②つながり機能(サロン等の居場所づくり)③たすけあい機能(生活支援等)④調整機能(地域見守り会議、住民への研修会、多機関との連携等)に整理され、①③④は、各区、④は自治振興会が担っていくことを合意形成しました。平成27年度は、以上の準備を経て、地域住民への支え合うまちづくりに対する啓発を行います。地域における包括ケア体制づくりは、新しいものを作ることであり、関係機関、団体等とより強い連携体制、協働体制の再構築が重要です。フォーマルサービスで補えないインフォーマルサービスを住民が自ら生み出し有機的に機能できる山内地域包括ケアをめざしていきたいと考えます。

見守り先進地視察と5回のワークショップ  
毎回20名以上の方々と盛り上がりました。

2014年7月3日	見守り活動先進地	高島視察研修
2014年7月29日	ワークショップ	高島からの学び
2014年9月26日	ワークショップ	山内の課題抽出
2014年10月28日	ワークショップ	山内で取り組みたいこと
2014年12月4日	ワークショップ	テーマ設定
2015年2月20日	ワークショップ	次年度取り組み

### 高島からの学び

26年7月8日、全国的にも見守り活動の先進地である滋賀県の高島に行きました。6つの中学校区を持つ高島市。特徴として①内容は集落ごとにオーダーメイド②「見守り会議」で住民×専門職が協働③重層的な見守りの仕組みづくり。集落ごとの定例見守り会議、ワンコインカフェ、70歳以上が実施する高齢者見守り隊等を紹介して、認知症予防の効果を示しながら、高齢者自身も(元気なら)や子どもたちを担い手になっていくことは、参考にできることでした。

要は、役員だけがするのではなく、みんなで相談し合う事、

### いろいろな「見守り」の形

ボランティアとしてやりたい人がやる形も地域が認めていくこと、「自然に助け合い、見守れる関係作り」を目指していかねければならないことを実感しました。高島までは遠かったですが、班員の交流の場となり、いいスタートができました。



高島市社会福祉協議会  
地域見守り士さんより  
高島市見守り士さんより講義

### 平成27年度に向けて

5回ワークショップにより、山内学区における地域見守りの具体的な活動は、①みまもり機能(家庭訪問等)②つながり機能(サロン等の居場所づくり)③たすけあい機能(生活支援等)④調整機能(地域見守り会議、住民への研修会、多機関との連携等)に整理され、①③④は、各区、④は自治振興会が担っていくことを合意形成しました。平成27年度は、以上の準備を経て、地域住民への支え合うまちづくり